

埼玉県の麻について○塩田公子<sup>\*</sup>，正地里江<sup>\*\*</sup>，岡野和子<sup>\*\*</sup>

(\*青葉学園短期大学，\*\*東京家政学院短期大学)

【目的】 麻は、武士の袴，夏衣，夏服，帽子などの衣料素材として、また、袋物，下駄の鼻緒，縫糸，畳糸，敷物，縄，網などの生活用品として広く用いられてきた。埼玉県内の麻の生産や麻の衣料，麻製品について調べ、どこの地域で、どのような用途に使用されているのかを調査することを目的とした。

【方法】 埼玉県立博物館，市立の博物館の所蔵する資料及び文献等と県立，市立図書館に収蔵されている県，市，町，村史誌等の麻についての記述を収集し、関連のある地域の実態調査を行い、検討した。

【結果】 文献調査により、行田市，加須市，坂戸市，川越市，飯能市，入間市，志木市，戸田市に麻の栽培，麻織物の生産，租税制度等があったことが、明らかになった。木綿（羽生・行田・加須），絹（秩父・飯能）についての文献が多くみられ、麻についてはごくわずかであった。麻は農家の自家消費用として、小規模に栽培され、農民の日常的な衣料であったが、上布は農民には禁じられ、制限された。室町時代に輸入された木綿は、江戸時代になって栽培が急速に普及し、県内は代表的な木綿産地となり、麻の着物から木綿への転換が行われた。大正初期より蕨市を中心に、麻服地，シャツ地等の麻織物がさかんとなり、昭和16年頃には海軍用の半袖，半ズボンの防暑服が数多く生産された。現在、麻織物は南東部で少量織られている。また、行田市，大宮市，八潮市で染色加工されているが、中国産の麻織物が使用されている。埼玉県では木綿，絹の生産が盛んであったため、東北地方などに比べ、麻の利用は少ないことが確かめられた。